

みごろの花&生きもの 散策コースマップ

2025~2026

12月中旬～1月中旬

- 季節のおすすめ散策コース
(ゆっくり歩いて1時間)
- おでかるコース
(ゆっくり歩いて30分)



いきもの



オオムラサキ(タテハチョウ科)

冬は幼虫の姿で、エノキの木の下で落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中の突起が4対あることで、ゴマダラチョウと見分けられます。



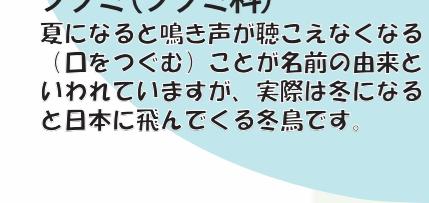
ゴマダラチョウ(タテハチョウ科)

成虫は、黒地に白のまだら模様が特徴的な蝶。オオムラサキと同じく、エノキの木の下の落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中の突起は3対です。



ツグミ(ツグミ科)

夏になると鳴き声が聴こえなくなる(口をつぐむ)ことが名前の由来といわれていますが、実際は冬になると日本に飛んでくる冬鳥です。



- ヒヒヒヒッ
- ルリビタキ(ヒタキ科)

青色が美しい冬鳥の一種。メスや若いオスは目立たない灰褐色をしています。

Photo Spot

白拍子棚田(とんど焼きの風景)



ヒヒヒヒッ

ジョウビタキ(ヒタキ科)

橙色の胸に、灰色の帽子が特徴的。平地や低山の明るい林で暮らす、もっとも身近な冬鳥の一種。

ヒヒヒヒッ

ルリビタキ(ヒタキ科)

青色が美しい冬鳥の一種。メスや若いオスは目立たない灰褐色をしています。



- ヒヒヒヒッ
- 小野新池(カモなどの水鳥)

Photo Spot

小野新池(カモなどの水鳥)

Photo Spot



ヒヒヒヒッ

アオキ(実)(アオキ科)

名前の由来は、葉も枝も「あおい」木だから。街中でも、葉が斑入りの物がよく植えられます。

Photo Spot

アオキ(実)(アオキ科)

名前の由来は、葉も枝も「あおい」木だから。街中でも、葉が斑入りの物がよく植えられます。

アキグミ(実)(グミ科)

秋に実がなるグミの一種。果実は食用になり、果実酒などに利用されます。



モチツツジ(紅葉)(ツツジ科)

名前の由来は、花芽をさわると粘ることから藍那ではモチバナとも呼ばれます。冬の紅葉も美しい木です。



ヤブツバキ(ツバキ科)

ツバキには様々な種類がありますが、自生のツバキといえばヤブツバキのこと。メジロが蜜を吸いにやってくることもあります。



ソヨゴ(実)(モチノキ科)

風に葉がそよぐ音から、ソヨゴという名がついたそう。また、火であぶると葉が膨らんで音を立てて破裂することから、別名フクラシとも言われます。



ススキ(イネ科)

秋の草地を代表する植物。秋の七草の尾花です。藍那では、茅葺屋根の材料として利用されてきました。



ヒガンバナ(葉)(ヒガンバナ科)

花は秋の彼岸の頃に咲きますが、葉は花が枯れた後、晩秋～春先までの間見られます。そして、翌年に花が咲く頃には葉はすでに枯れています。



ナズナ(アブラナ科)

春の七草の一つ。茎からのびる果実の部分がかわいいハート型をしています。その形が三味線のバチにみえることから「ヘンヘン草」とも呼ばれます。